

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400046		
法人名	有限会社スマイルケア		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	玉野市玉原2丁目17-21		
自己評価作成日	平成25年9月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『心が躍る誇りある暮らし』という理念に添って、「生きる意欲や楽しみ」を持ち続けてもらえるような支援を目指しています。利用者様をはじめ、来所される全ての方々に“心地よい空間”であると感じていただけるようにという思いを、スタッフ一人ひとりが常に念頭に置き、日々の生活では利用者様にたくさんの安心と喜びを提供できるように努力しています。また、理念にそって全職員は支援に対する目標を個々に掲げており、目標意識の統一を図っていくなど、チームワークを大切にしています。そして“笑い”のある家庭的な雰囲気での生活で、皆様により元氣になっていただきたいと思います。2年前からセラピー犬の『もりお』がいることで、皆様の表情が生き生きとして見える場面も多いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を大切にしながら安心した暮らしの継続とその人らしさを大切にした支援に努めている。又、玉野市事業所連絡協議会・福祉ボランティアとの交流、運営推進会議などから地域に根ざした取り組みが窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『心が躍る誇りある暮らし』という理念に添って、年間の個人目標を立てている。日々の朝礼でも各ユニットのその日の目標を共有し、サービス提供にあたっている。	理念に沿って各ユニットで個々に目標を持ち、毎日確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、ゴミステーションの掃除を行っている。近隣の人にも挨拶や言葉かけを行い、関係づくりに努めている。ボランティアもできるだけ地域の方を受け入れ、幼稚園、保育園児との交流もある。	町内会の一員として積極的に取り組み、地区のボランティア(フルート、マンドリン、アコーディオン、絵手紙など)又幼稚園・保育園児などとの交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される研修に参加している。ヘルパー2級講座の実習生の受け入れも行っている。仕事外でも地域の人や知人に認知症のことについて相談されることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見には素早く対応し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議を活かしケアサービスの向上と地域への貢献に反映させている(防災訓練も町内連絡網により活かされている)。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会では行政からの情報提供を受けている。日頃より、電話やFAX、メールなどで連絡を取り合っている。	行政担当者参加によりグループホーム連絡協議会に於いて情報提供、事業所間の連携と密度の高い関係が築いているように窺えた。日頃から電話FAX等で連絡協力体制が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づいて職員の意識統一を図っている。建物の立地条件上、玄関から出られないようになっているが、ご家族には十分説明をし、同意を得ている。	身体拘束しないケアに取り組んでいる。保護の観点から安心、安全ケアに取り組み、家族説明を度々し全体会議で状況報告し理解を深めている。	身体拘束マニュアルをより深く理解され多種多様な事例を持ち寄り、全職員で同意し今後も継続して取組まれる事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉かけ一つから不適切なケアだと思われることがあった場合は、お互いに注意し合える関係になっている。今後も全体会議の課題に取り入れたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している人があり、担当者と連携を図りながら支援している。制度についての理解が足りないスタッフも居るため、再度勉強会の予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所時には声をかけ、気軽に話しやすい雰囲気作りをしている。意見要望があれば介護に反映できるよう、職員全員に伝えている。玄関に意見箱を設置した。	毎月の「お便り」を始め、FAX、電話、訪問、面接時等気軽に会話できる雰囲気作りに努めている。小さな思いを汲みとつて、意見、要望を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は必要であれば全体会議で取り入れ、職員全員で話し合いができるようにしている。	管理者、職員間の人間関係は大変信頼度が高く些細な事でも話し合い実践に取り組んでいる。又、代表者との月1回の会議が実施されている。	今後も代表者との時間を有効に活用し継続に努められる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間は気持ちよく働ける雰囲気作りができていると思うが、やりがいや向上心につながる職場環境・条件が整備できていないと思えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員全員が順に受けることができるように配慮をしている。その研修は会議の場で内部研修として発表し、全職員が学べるようにしている。プチ勉強会も毎月続けて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会は年2回集まるほか、相互の連携も図っている。今年は夏に懇親会を行って交流を広めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前に訪問し、細かくアセスメントを行っている。本人や家族の思いをしっかりと聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困り事や苦労をゆっくり聞いて理解し、事業所としてはどのような対応ができるかを十分に話し合っている。来所持には声をかけ、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントしてきたことを素早くまとめてあらかじめスタッフ全員で情報を共有することにより、入所と同時に必要なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のあらゆる場面で、利用者の得意とすることを活かしており、誇りある生活に向けての支援を行っている。最近は利用者同も支え合う関係ができ、馴染みの関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も行事に参加できるよう案内をし、共に支える機会を増やすようにしている。日頃の様子や状態をこまめに報告・相談するなど、つながりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の知り合いのいるできるだけ近隣のボランティア訪問を取り入れている。馴染みの場所に行けなくなった方が多いが、買い物同行等で知人に合うこともある。	町内の行事に参加し懐かしい人に出会ったり、ボランティアの方々と馴染みになり新しい関係が出来てきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、皆で楽しく過ごせる時間を作ったりと、職員が利用者間の調整役になって支援している。笑いの時間が増え、良い関係ができていく。誕生日会は全員で歌って祝い、感動し合う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合には病院にそれまでの生活状況についての情報提供を行う。入院して退所となった利用者についても特養などと連絡調整を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でそれとなく暮らしに対する希望を聞きだすようにしている。さりげなく寄り添い、小さな思いも見逃さないように努めている。	意向や希望を把握するのが困難な利用者は家族と話し合いながら本人の表情等を見逃さないよう毎日注意し検討を重ね支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴を把握できるよう、アセスメント時には注意を払っている。また、スタッフは必ずフェイスシート、アセスメントシートに目を通し、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌を充実させたり、個人記録を叙述的な記録にしたりの努力をしている。これらの記録物はスタッフ全員が目を通し、利用者の状態把握に努めている。申し送りの徹底により、利用者の変化を共有する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	細かいケアのあり方については、スタッフ間の連絡ノートを作り、日々反映させている。問題があれば介護計画の見直しを行っている。	主治医や関係者の意見・情報を活かしながら検討し、随時変化を把握し現状に即した介護計画に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルへの記録は、本人の様子がよく分かるように、本人の言葉を交えて叙述的に行い、日々の変化を共有している。スタッフの対応欄への記入が少ないことを反省している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、本人や家族の好みの服を選ぶこと、嗜好に合わせた食事や飲酒、体調に合わせた食事形態、入浴時間、外出支援など柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については議題には上るが、人員不足もあり、達成はできていない。毎年の地域のさくら祭りに参加して交流を深めるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を奨励している。 家族が同行できない場合は職員が代行し、適切な医療を受けられるように配慮している。	連携病院、かかりつけ医の関係が築かれている。重度の医療についても、主治医の細かい指導と気配りで適切な医療支援と関係づくりが窺えた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護師とは常に連絡がとりあえる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日頃の様子や介護状況など、細かい情報提供を行っている。 また、定期的に見舞って入院後の様子を把握したり、家族とも連絡を密にして、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、早いうちに本人・家族の意向を確認するようにしている。 また、事業所としてできることとできないことの説明も行っている。昨年は施設で看取りを行った。	本人家族等と話し合い、看取り契約書を交わしている。医療関係者・職員・家族との連携もとれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作り、周知徹底を図っている。 初期対応については全体会議でデモストを行い、確認し合った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。 今年は緊急通報システムについて全員が再確認した。	避難訓練は実施しているが、利用者が重度化してきており、災害対策避難訓練全てに地域、家族の方々の協力体制を築く必要性を感じ再確認に努めている。	あらゆる災害を想定され、避難場所など職員、地域、家族の方々と訓練を重ね今後も継続した協力体制を築かれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重して、「さりげないケア」を心がけている。その人その人に合った対応ができていると思う。	その人その人に合った馴染みの言葉がけの対応に取り組んでいます。「心やすらぐゆとりある暮らし」のケアにより、人格を尊重した対応が昼食時の様子でも感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを多くし、意思表示ができるように誘導している。 言葉で表現できない場合には表情や反応で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の体調や気持ちに合わせて無理強いすることなく、その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で選んでもらえるように配慮し、着衣や髪の流れ、食べこぼしなどはさりげなくカバーをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者にも好みをたずねたり、旬の物を取り入れる工夫をしている。 食事は一緒に美味しく食べられるよう、楽しい雰囲気作りを大切にしている。	雰囲気や食材を大切にされた支援が行われている。又、出来る範囲で食事の準備や片づけを一緒にするよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のinとoutの記録を徹底している。時間にとらわれず、無理なく水分がとれるように工夫している。ゼリーを常備し(麦茶やイオン飲料で作る)お茶が苦手な人に勧めたら大成功だった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人、促しが必要な人、介助が必要な人、本人の能力に応じたケアを行っている。毎食後は無理であるが、夕食後には必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を訴えられない人はその人のサインを見逃さず誘導し、一回でも失敗を減らしていきけるよう努力している。 紙パンツを布パンツに変えた人もある。排泄チェック表を利用し、個々のパターンの理解に努めている。	自立支援に向けた排泄誘導に努めている（パット使用が少なくなり、家族から喜びの声を聞く事も出来た）。個々の状況に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後にトイレに座る習慣になるよう声かけや誘導を行うとともに、便秘に良い食材選びにも注意を払っている。 また、各人の排便の状態に合わせて軟便剤の服用を加減している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は午後からと決めているが、その日の気分や体調も大切に、湯温や浴槽の好みにも応じながら個別援助をしている。 入浴介助は会話を楽しみながら行う。一人が不安な人は二人で入ることもある。	大きな浴槽を活かしゆったりした入浴介助で個々に添った入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動量を高めていけるよう援助を行い、生活リズムを整えるようにしている。 室温や布団や体位等にも注意して心地よく眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については職員がすぐにわかるよう、健康管理ファイルに情報を整理している。 服薬時は最後まできちんと確認を行う。誤薬防止の為、二人で目視確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できないことより、できることを探している。 個々の力を十分発揮できるよう援助し、必ず感謝の言葉を伝えている。 毎日の生活の中で自然に役割ができていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は年々高齢となり体力が低下した為外出できる人も減ってきたが、できるだけ努力はしている。 他のフロアーに行くのも散歩と思い、勧めている。	普段から本人の要望を聞きながら体調変化に気を付け、家族との外出、馴染みのボランティアとの外出など機会を見つけ支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所管理は行っていないが、少額のお金を持っている人もある。 通販での買い物や、支払いの援助も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望の強い人に対し、電話の支援を行っている。カナダに住む娘に手紙を書いた人もいる。 メモや文章を書きたい人にはノートをプレゼントして日記のように書き綴っている人がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁に季節に見合った飾り付けをするなど季節感を取り入れるよう、配慮している。 採光や室温もこまめに調節している。壁飾りは協力下さるご家族があり、助かっている。	季節に合った採光、室温に気を配り、季節感と生活観を感じる工夫がされています。壁画、生花、風景、人物写真と飾り付けされている。四季折々の飾りつけは家族の協力があり、本人、家族、職員の笑顔に包まれているようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く場所があり、ゆっくり過ごしている。ソファで昼寝をする人、テレビを見る人、畳で横になる人など様々である。テーブルの配置や席の並びにも気を使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	白い猫を可愛がっていた方は、ぬいぐるみをベッドと一緒に並べている。毛布や枕などは使い慣れたものを持ってきている人が多く、安心して眠れると思う。 しっかりされた方は居室でDVDを見ている。	個性豊かな居室作りがされており、住み慣れた環境の継続が窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にも必要に応じてL字バーや滑り止めマットを使用するなど、個々のレベルに合わせた安全の工夫をしている。新しく入居された方に対してトイレの場所を覚えやすいように貼り紙をした。		